

科目名	細胞診検査学特論 (Advanced Study in Cytology)			科目コード	M310
選択区分	選択	履修時期	1 前	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	則松良明			関連DP	医①②③
授業概要	新しい標本作製法であるLiquid based cytology(LBC)法を用いた細胞形態学的診断法のみならず、癌の診断や治療に直結する分子細胞学的検査法(免疫細胞化学、ISH、FISH、遺伝子解析等)について講義する。				
授業目標	疾患の病因・病態を新しい細胞診標本作製法であるLiquid based cytology(LBC)法を用いた、細胞形態学および分子細胞学的観点(免疫細胞化学、ISH、FISH、遺伝子解析等)からその変化を捉え理解し、考察を深める。これら知識の統括に基づいて、実践現場における疾病の予防、早期発見、治療、病態解析に有用な細胞診検査を実施、開発できる高度な専門性を養う。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容
1	細胞診の基礎①	細胞診断報告様式
2	細胞診の基礎②	細胞診断の精度管理
3	細胞診の基礎③	検診の現状(婦人科, 呼吸器)
4	LBC 細胞診の基礎①	LBC法における原理と細胞診標本作製
5	LBC 細胞診の基礎②	LBC細胞診の基本的な見方
6	LBC 細胞診の応用①	LBC法における免疫細胞化学と細胞診断への応用
7	LBC 細胞診の応用②	LBC検体を用いた <i>in situ hybridization</i> 法と細胞診断への応用
8	LBC 細胞診の応用③	LBC検体を用いた <i>fluorescence in situ hybridization</i> (FISH) 法と細胞診断への応用
9	LBC 細胞診の応用④	LBC検体を用いた遺伝子解析と細胞診断への応用
10	LBC 細胞診の応用⑤	LBC標本を用いた細胞診スクリーニングの自動化
11	LBC 細胞診と婦人科疾患①	婦人科疾患の細胞形態学的捉え方と応用的検査法 外陰、膣、子宮頸部における感染症
12	LBC 細胞診と婦人科疾患②	婦人科疾患の細胞形態学的捉え方と応用的検査法 子宮頸部における扁平上皮病変・腺病変
13	LBC 細胞診と婦人科疾患③	婦人科疾患の組織形態学的捉え方と応用的検査法 子宮体部におけるホルモン不均衡内膜と細胞質変化(化生)
14	LBC 細胞診と婦人科疾患④	婦人科疾患の細胞形態学的捉え方と応用的検査法 子宮体部における I 型癌とその前癌病変
15	LBC 細胞診と婦人科疾患⑤	婦人科疾患の細胞形態学的捉え方と応用的検査法 子宮体部における II 型癌
成績評価方法	レポート(50%)および口頭試問(50%)を併せて評価する	
必携あるいは参考図書・文献	参考図書 畠榮、則松良明他編：液状化検体細胞診マニュアル、篠原出版 Gray W, Kocjan G (eds): Diagnostic Cytopathology, 3rd edn, London, Churchill Livingstone,	
授業時間外の学習について		
関連科目	309 組織病理検査学特論	
備 考		